

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ケンリハスポーツキッズ島田				公表日	R8年 1月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境 ・ 体 制 整 備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	利用定員や子どもの状況に応じて、パーテーション等を活用しながら環境調整を行い、子どもたちが安心して集中できる空間づくりを行っています。職員配置についても基準を遵守し、支援が行き届く体制を整えています。	活動内容や利用状況の変化に応じて、より柔軟な環境設定や人員配置ができるよう、引き続き検討していきます。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0			
業務 改 善	5	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	PDCAサイクルを意識し、職員間で振り返りを行いながら支援や業務の改善に取り組んでいます。自己評価および保護者評価の結果についても、事業所内で共有しています。		
	6	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	0		評価結果をより分かりやすく公表し、改善内容を継続的に発信できるよう工夫していきます。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0		外部研修や関係機関からの助言、保護者評価等を第三者の視点として受け止め、職員間で共有しながら支援内容や業務の見直しをしていきます	
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0			
児童 発達 支援 計画 の実 施	10	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0			
	11	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0			
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0			
	13	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	子どもの状況に応じて活動内容や進め方を工夫し、プログラムの固定化を防いでいる		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0			

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	22	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		関係事業所と必要に応じて情報共有を行い連携した支援を心がけているが、連携の頻度や仕組みについては今後さらに強化していく必要がある。
	23	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4		
	24	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4	就学に向けて、保護者からの意向や児童発達支援計画の内容を踏まえ、必要に応じて関係機関と情報共有を行い、スムーズな移行につながるよう支援を行っています。	学校との直接的な連携や情報共有の機会が十分とは言えない状況があります。今後は、就学先との連携をより計画的に行い、相互理解を深めていきたい。
	25	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3		
	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	0	5		実際に他の子どもと交流・活動する機会については十分に確保できていない現状があります。今後は地域資源や関係機関との連携を深め、交流の機会を具体的に検討していく。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	28	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3		
	29	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	2		
保護者への説明等	30	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3		エンジョイサロンという名目で保護者同士が集まり、就学に向けた悩みや情報を共有し話し合う機会を設けているが、きょうだい交流などの取り組みは今後の課題である。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		

非常時等の対応	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		地域住民の方を事業所の行事に招待するなど、具体的な交流の機会については十分に実施できていない現状があります。今後は、地域との関わりを広げる取り組みを検討し、より開かれた事業所運営を目指していくことが課題です。
	38	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	39	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		
	40	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0		
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3		
	42	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0		